

# 地名には由来・歴史があった

皆さんは今住んでいる地域の名称の由来を知っていますか。

普段生活する中で、当たり前になっている「地名」。

例えば、地名には「田や山、谷などがつく場合はそういった地形になっている」「崎がつく場合は海に面している」「など、土地や地形の特徴がそのまま付けられる場合がある。

ります。

しかし、すべてが土地や地形の特徴のままつけられたものではありません。由来には諸説があると言われるものが、市内の地名には興味深い由来があります。

今回は皆さんが住んでいる地域の地名の由来について掘り下げてみました。

《広報広聴課》

## 3 喜多

昔は糠田辺ともいった。「舞鶴市史」では、「喜多村」と記されており江戸時代に「喜多村」となるとされている。地名の由来は大きく2つあり、会津若松の北方（喜多方）のように、城下町の北に位置するのて付けられたもの・細川氏が田辺城築城にあたり、円満寺村の農民を北の方向に移住させたことが地名の由来と語られている。



## 1 魚屋

伊佐津川河口部に位置する。田辺城下の魚屋町で、すでに細川氏の城下町運営時代から本町として地子銭（地代）免除の町屋であったという。明治41（1908）年〜大正2（1913）年にかけて行われた伊佐津川下流の付け替えによる埋立地を、その改修に功のあった大森鐘一京都市知事にちなんで、大森町と命名。現在も魚屋大森という地域が残っている。



## 2 泉源寺

舞鶴湾に注ぐ堀川流域右岸に位置する。地名の由来は大きく3つある。古来に寺院が千軒あったこと・氏神愛宕神社の本社が浅間の奥の社であったこと・地下水が湧くので泉源と名付けたことに由来すると言われている。



## 4 千歳

波佐久美ともいい、千年とも記す。舞鶴湾口の西に面する。地名の由来は、千年、数えつくせぬ年の意味をもつ瑞祥地名（めでたい意味の言葉や良い意味の言葉から創作された地名）。海岸の山に文珠菩薩が祀られており、文珠が千年ここにありとあるという伝承がある。その因縁で波佐久美村が千歳村に改まったと言われている。



## 5 城屋

古くは城谷と記し、山城・陣屋を構えた谷を意味する。ここにいた土豪（その土地の勢力家）は細川氏に滅ぼされたといひ、細川氏の治世の時「城屋」と改めた。千石山の北西麓、高野川上流に位置し、集落の中央東部の山麓に雨引神社がある。毎年8月14日には伝説の大蛇退治にちなむ農作物の豊凶を占う揚松明の神事が行われる。



## 6 公文名

伊佐津川と高野川に挟まれた地に位置する。地名の由来は、公文（貴族の土地などで領有形態など重要文書を扱う人）に田地を与えたことから公文名と伝えられている。近世になり名主と名田という語が使われなくなり、現在の「くもんな」となった。公文名と七日市の境に、平成の名水百選に選ばれた「真名井の清水」がある。

